

## 【岐阜女子大学】メタデータ記述用紙

メタデータ項目		メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄の歴史上人物
3	資料名	蔡温 蔡温スクエアと蔡温橋
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	沖縄、歴史、蔡温、蔡温橋、蔡温スクエア
6	説明	<p>蔡温（さいおん；1682～1762）は15～16世紀の琉球王朝の政治家で、経済、土木、風水などの多分野でも活躍した偉人であり、具志頭親方（ぐしちやんうえーかた）を称した。親方とは琉球王国の称号の一つで、琉球士族最高の称号である。蔡温は現在も沖縄県民に広く親しまれており、「蔡温」の名の付く施設や建造物が県内には複数ある。</p> <p>代表的な施設としては、ゆいレール牧志駅直結している商業施設「さいおんスクエア」である。</p> <p>「さいおんスクエア」は「那覇広域都市計画 牧志・安里地区第一種市街地再開発事業」として整備され、那覇市牧志駅前ほしぞら公民館・図書館や宿泊施設、コンビニなどが入る複合施設でもある。</p> <p>その名称は県庁前から国際通りを進むと安里川にかかる蔡温橋があり、その橋を渡ったすぐ右手に位置することから「さいおんスクエア」と名付けられた。</p> <p>蔡温は農業生産の向上を目指し、多くの治水・灌漑事業を実施した。</p> <p>蔡温は、那覇（当時の那覇は現在の久米や西町、東町あたりで離れ島だった）から首里まで続く安里川の一部を改修し、安里より上流域（現在の松川）にあたる当時の茶湯崎村（チャナザチムラ）について、著作「独物語」で、「茶湯崎に湊を造れば、交通の便が良くなり、さらに商船がやってきてこの地で交易ができる。そうなれば首里に住む人々の生活も良くなる。」（原文）と述べている。（引用：「茶湯崎橋跡」案内板より）</p> <p>蔡温の想いは後世にも引き継がれ、昭和初期に安里川にかかる橋を蔡温橋と名付けた。</p> <p>しかし、安里川水路は水量の割に川幅が細い上に急カーブ続きで、大雨になると氾濫していた。</p> <p>そのため、洪水防止を目的に2000年に安里川上流に「金城ダム」、2001年に安里川に合流する真嘉比川上流には「真嘉比遊水池」が整備されたが、2007年の集中豪雨で安里川は再び氾濫し、国際通りも含めた安里周辺は大きな被害を受けた。</p> <p>そこで改めて都市開発が計画され、安里川は川幅を大幅に広げ、川の流れをより緩やかなカーブに整備したのが、今の安里川親水公園内を流れる安里川である。安里川親水公園に流れ込んできた川は、蔡温橋下を通過して海に向かって下流へと流れていく。</p>
7	形式	静止画（jpg）
8	氏名	
9	時代・年	2021/10/16
10	地域・場所	沖縄県那覇市安里
11	利用条件	表示 4.0 国際（CC BY 4.0）
12	関連資料	
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	2021/12/18

16	登録者	
17	ファクトデータ	circd082e-0020. jpg
18	サムネイル	
19	公開の可否	公開可
20	* 特色	
21	* 活用支援	
22	* 利用分野	教育、生涯学習、地域学習
23	* 改善結果	
24	* 処理プロセス	
25	機関外リンク情報	
26	目標	
27	紹介	